

西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) キュウシュウサンギョウダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) マツカサゼミナール
九州産業大学	商学部	松笠ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) エムゼミビーチーム	フリガナ) キョウラギ マサヤ	5人	無
MゼミBチーム	教楽木 誠也		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

指示棒

研究テーマ（発表タイトル）

飲み放題は効率的か？～大学生の視点からの分析～

※必ずく企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たち大学生は、ゼミやサークルの打ち上げなどといった飲み会の場で、居酒屋の飲み放題を利用する機会が多い。そこで、飲み放題というシステムは、私たち大学生にとって本当に効率的であるのかという疑問を持った。本研究では、大学生、居酒屋における飲み放題の実態を調査し、飲み放題によって引き起こされる問題を健康面、心理面、費用面、環境面の4つの面から分析する。その結果、居酒屋の飲み放題は客側（大学生）、店側（居酒屋）の双方にとって効率的であるのかについて学生の視点で考察する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

2010年に世界保健機構（WHO）は、「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」を発表した。日本でも、2013年には「アルコール健康障害対策基本法」、2016年には「アルコール健康障害対策推進基本計画」が厚生労働省により策定され、飲酒の問題への対策を進めている。

一方で、東京消防庁によると、急性アルコール中毒の搬送者数は平成27年まで増加傾向にある。その中の約半数が10代、20代の若者となっており、私たち大学生も含まれている。また、近年、大学生の急性アルコール中毒による死亡事故は後を絶たず、2000年～2016年の17年間では、46人もの大学生や専門学生が急性アルコール中毒で死亡し、社会

問題となっている。この原因として、コンパや新入生歓迎会などで場を盛り上げるために「イッキ飲み」をすることなどが挙げられる。実際に、大学生に飲み放題についてのアンケート調査を実施したところ、普段飲み放題を利用する人の割合は全体の86%と高い。また、平均杯数は、単品注文の場合に比べ、3.4杯も多く飲酒していることも分かった。これらのことから、飲み放題は私たち大学生にとって身近なものであり、急性アルコール中毒といった健康被害を引き起こす要因の1つと考えられる。

3. 研究テーマの課題

現状からも分かるように、世界保健機構（WHO）や厚生労働省によりアルコールや飲酒に対する対策が成されてはいるが、大学生の急性アルコール中毒による死亡事故などの問題は現在も増加傾向にあるということが課題として考えられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

【考察】調査結果から、客側（大学生）と店側（居酒屋）を健康面、心理面、費用面、環境面の4つの面で分析する。

① 客側（大学生）は健康面、心理面、費用面で分析できる。

○**健康面**：大量のアルコールを短時間に摂取すると、血中アルコール濃度が上昇し、急性アルコール中毒や暴力などによる外傷を負う危険性が高まる。しかし、現状でも述べたように、大学生200人中148人が単品注文の場合よりも飲み放題の場合の方が、平均3.4杯も多く飲酒していることが分かっているため、飲み放題というシステムが大学生の飲みすぎに影響を与えていると言える。

○**心理面**：消費者の行動心理によって働く効果の一つにサunkコスト効果がある。これは、先入観や思い込みで消費者の判断が歪められるというもので、飲み放題はお得という先入観や思い込みで飲み放題を選択してしまう可能性がある。また、元を取らないと勿体無いという心理も働くため、多量飲酒などに繋がる可能性も考えられる。

○**費用面**：経済学には、支払い意思額というものがある。その例として、ビールを飲む際、最初の1杯目のビールは美味しいと感じ、実際の価格よりも多く払いたいと感じる。しかし、2杯、3杯と杯数が増えていくに連れ、ビールの価値は下がっていくというメカニズムになっている。このことから、杯数を多く飲んだとしても元を取れているとは限らないということが分かる。また、厚生労働省の研究班によると、アルコール飲料の国内市場規模の3兆6000億円を飲酒による事故や社会損失、医療費の合計が4兆1483億円と上回っているということも発表されている。このことから、飲酒が社会的に大きな影響を与えているということが分かる。

② 店側（居酒屋）は、費用面、環境面で分析することができる。

○**費用面**：客側に対して、条件を設定することができ、コース料理の場合はあらかじめ料理を決めることが可能。そのため、原価の安いもので構成でき、材料のロスの抑制に繋がる。また、事前予約により、必要な材料を把握し、発注できるため、下準備も可能となる。その結果、二人分の労力が必要な仕事を、下準備があることにより一人分の労力で補うことができるため、人件費の削減にもなる。以上のことから、利益が見込めないという飲み放題でも、料理等で補うことで、店の売上の確保に繋げることが可能となる。

○**環境面**：飲み放題によって食べ残し、飲み残しが数多く発生している。実際に、農林水産省の外食産業における食品廃棄物の発生状況と主な要因からは、店側から出る廃棄物の量が39%であるのに対し、客の食べ残しによる廃棄物の量が58%と多い。インタビュー結果からも分かるように、客が必要以上に注文したりグラス交換制を守らなかったりすることなどが食べ残し、飲み残しに繋がっていると考えられる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

1. 大学生における飲み放題の実態を知るため、大学生200人にアンケート調査を実施した。

・調査対象：大学生200人（男性：111人、女性：89人）
・調査期間：9月2日～9月10日
・調査場所：福岡市内にある居酒屋とその周辺

2. 居酒屋における飲み放題の実態を知るため、福岡市内の居酒屋50店舗にインタビュー調査を実施した。

・調査対象：居酒屋50店舗
・調査期間：9月20日～9月25日
・調査場所：福岡市内

6. 結果や今後の取り組み

【まとめ】飲み放題の実態について調査し、健康面、心理面、費用面、環境面で分析した結果、大学生にとって飲み放題は、

安価で客側が望む量を注文できることから、一見お得で利用しやすいシステムという風に見える。しかし、健康面、心理面、費用面においての分析により、大学生の急性アルコール中毒が原因での死亡事故や、飲酒による損失が経済効果を上回っている現状があることから、飲み放題というシステムは、社会的に悪影響を及ぼす要因の一つであると言える。また、居酒屋にとって飲み放題は、費用面では、集客になり回転率が上昇するが、店側の利益を見込めるものではなく、居酒屋は料理などの多方面での利益の確保が必要不可欠になることがインタビュー結果から分かった。環境面では、食べ飲み残しといった環境問題に飲み放題というシステムが関係しているということが分かった。

以上の分析結果から、**飲み放題というシステムは、大学生、居酒屋の双方にとって効率的ではないため、何となくという理由で飲み放題を選択することは避けるべきだ**と結論付ける。

【今後の課題】今回は大学生と居酒屋のみに着目して研究を行ったため、今後はその他の年齢層や飲食店についても着目して研究を進めていきたい。

7. 参考文献

青木大地 学生の飲酒行動・意識・知識に関する研究—アルコールハラスメントに着目して—（2016）

五十嵐明彦、小倉優子 焼肉屋は食べ放題なのになぜ儲かるのか（2009）

井垣竹晴 労力を先行投資した場合のサンクコスト効果の検討（2008）

イッキ飲み・アルハラ防止キャンペーン2017 急性アルコール中毒等による死者数

<http://www.ask.or.jp/ikkialhara_victims.html>

尾崎米厚 アルコール関連問題の社会的損失の推計（2012）

経済学の基礎概念：「市場」と市場メカニズムについて

サッポロビール株式会社 アルコール代謝の仕組み

<<http://www.sapporobeer.jp/tekisei/shikumi/taisha.html>> 2017年9月19日アクセス

東京消防庁 他人事ではない「急性アルコール中毒」～正しいお酒の飲み方で、楽しい年末を～

<<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/kyuu-adv/201312/chudoku/>> 2017年8月27日アクセス

日経 BP 社日経レストラン 飲み・食べ放題（特集お客は喜び、店は儲かる絶妙な割引術）（2011）

農林水産省 食品循環資源の再生利用等実態報告書（2001）

農林水産省『食品ロス統計調査・外食調査』（2015）

吉本尚『アルコール過剰摂取は怪我の元～大学生の飲酒教育、もう一つの必要性～』（2017）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑